

弘前流地方創生の実現に向けて 魅せるファシリティマネジメント

お城とさくらと
りんごのまち「弘前」

弘前市は、西に岩木山、南に世界自然遺産「白神山地」、東に奥羽山脈の八甲田連峰を望む、自然と眺望に恵まれたまちです。そして、日本一の生産量を誇るりんごの産地として知られています。

弘前藩の城下町として発展してきた本市は、史跡弘前城跡をはじめ、寺院街や武家住宅、明治、大正期の洋風建築物など数多くの文化財を有し、本年100年の節目の年を迎える春のさくらまつりや夏のねぶたまつりなど、四季折々の祭りが国内外から多くの観光客を迎えます。

近年は、まち歩き観光や近代建築の巨匠、前川國男の作品に会えることのできるまちとしても注目

されています。

**公共工事をデザイン・
絶景を生み出すシステム**

本市のシンボルである弘前城は、江戸時代以前から残る現存12天守の一つとして、また、築城当時の城郭がほぼそのままの形で残る希少なお城として知られており、現在、100年ぶりといわれる本丸石垣修理事業が進められています。本市の歴史や文化を象徴する地域の宝を後の世代に伝えるための歴史を紡ぐ大事業です。

市では、世紀の事業の実施に当たり、普段、一般の方の目に触れることのない公共工事を公開し、体験型のイベントとしてデザインしました。総重量約400tの天守を人力で動かすかつてない催しは、市民や観光客を巻き込み、国

内外から大きな反響をいただきました。日本の文化を世界に発信する良い機会になったと思います。

また、咲き誇る花が来園者を魅了するさくらまつりでは、近年、濠の水面に桜の花びらが絨毯を敷き詰めたかのように降り積もる「花筏」という光景が人気となっています。

フェイスブック「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」で話題となったこの光景は、濠を準用河川に指定し、水量を調整することにより色鮮やかに美しく演出することが可能となりました。

**文化財をコンバージョン・
優れた建築のある暮らし**

弘前公園の濠端に、本年、築100年を迎える「旧第八師団長官舎」があります。現在、スター

ボックスコーヒー弘前公園前店としてにぎわうこの建物は、市が所有する国の登録有形文化財です。

行政財産である文化財で営業する店舗として、全国唯一となる建物の趣のある内装には、津軽地域の伝統工芸品であるこぎん刺しやブナコがあしらわれ、日本一美しいスターボックスとも言われているようです。お店では、本市の基幹産業であるりんごの生産者を招いた催しなども定期的に開催されています。歴史的建造物の維持管理は、自治体にとって課題の一つとなるものですが、現代のライフスタイルに合わせて活用していくことも重要と考えています。

そして、平成28年、国立西洋美術館が世界遺産に登録されました。設計に当たったル・コルビュジエの下で学び、日本の近代建築を牽引した前川國男という建築家がいいます。本市には、前川の第1作から最晩年の作まで8つもの建物が現存し、本市の町並みに奥深さを与えています。弘前市立病院、



さくらの花が生み出す絶景「花筏（はないかだ）」

市民会館、博物館、市役所、斎場など、市民は、生まれてからこの世を去るまで、偉大な建築家の作品に囲まれて生涯を過ごします。私は、これらの建物を次の世代へ引き継いでいく必要があると考え、市民会館、博物館、市役所庁舎を、「継承」と「革新」をテーマに、次の50年を見据えたりノベーションに取り組みました。設備や機能の向上を実現しつつ、建築当時の意匠を復元しています。

地域の財産をつなぐ ネットワークの構築

本市は、津軽地域の中心都市として発展してきましたが、このまちをつくり上げたのは、先人が築いた文化を大切に守りながら、新しい文化に刺激を受け、時代を切り開いてきた人々です。人々がまちをつくり、まちが人々をはぐくみ、幾重にも積み重ねられてきた文化の層の厚みが私たちの財産です。

弘前城の石垣修理に当たっては、現存天守のある自治体とともに「現存12天守PRプロジェクト」を展開し、全国、そして世界にその魅力を発信しました。また、本年2月には、前川國男の建築作品を活用する自治体間により「近代建築ツーリズムネットワーク」を設立しています。そして、クリエイティブの力で地方から日本を創生する「弘前デザインウィーク」では、デザインウィークに取り組む全国の自治体と連携し、クリエイターの育成や新たな視点による商品開発を行っています。地域間の連携は、1つの自治体ではなし得ない大きな力を生み出すとともに、地域の素晴らしさ

に気付くきっかけともなるものです。

「子どもたちの笑顔あふれるまち弘前」の実現へ

私は、これまでファシリテイマネジメントの考え方に基つき、行政財産の活用や行政の効率化など、数多くの取り組みを行い、財政の健全化に努めてきました。

現在、地方公共団体においては

プロフィール

- ◆ 面積 524・20 km²
- ◆ 人口 17万5384人
- ◆ 世帯数 7万9625世帯

〔将来都市像〕 子どもたちの笑顔あふれるまち弘前

〔まちの特徴〕 青森県の南西部に位置する世界自然遺産「白神山地」の豊かな恵みに育まれた城下町

〔市町村合併〕 平成18年2月27日、弘前市、岩木町、相馬村が合併



弘前市長
葛西憲之



〔特産品〕 りんご、米、嶽きみ、津軽塗、下川原焼、こぎん刺し、あけび蔓細工、津軽打刀物、ブナコ

〔観光〕 弘前公園、岩木山神社、長勝寺、禅林街、最勝院五重塔、旧弘前市立図書館、藤田記念庭園

〔イベント〕 弘前さくらまつり、弘前ねぶたまつり、お山参詣、弘前城菊と紅葉まつり、弘前城雪燈籠まつり

人口減少問題に直面し、地域活力の低下が危惧されておりますが、私は、引き続きこういった取り組みを展開することにより、弘前市を持続可能なまちとし、本市の将来都市像である「子どもたちの笑顔あふれるまち弘前」の実現につながるよう、市民・各種団体・行政が互いに協力・連携し合う「オール弘前体制」で地方創生を実現していきたいと考えています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

百年の彩りを 次の100年の輝きへ

市の概要

八王子市は、首都圏西部に位置する人口約58万人の都市で、中央道・圏央道の3つのインターチェ



毎年70万人が訪れる「八王子まつり」

ンジと、J・R・私鉄合わせて21の駅がある交通の要衝です。市内には、21の大学などがあり、約10万人の学生が学ぶ全国有数の学園都市でもあります。

夏には、毎年70万人を超える人出でにぎわう八王子まつりが開催されます。関東屈指の山車まつりといわれ、美しい彫刻で飾られた19台の山車がまちを巡行する姿は壮麗です。

そして、年間300万人もの観光客が訪れる高尾山は、世界一登山者数が多い山であり、オリエンテーリング発祥の地としても知られています。山の南斜面はカシ類などの温帯林が広がり、四季を通じて多種多様な動植物を観察することが出来ます。都心に近い利便性を持ちながら、豊かな自然と

触れ合えるのは、本市ならではの魅力です。

八王子の歴史

八王子という地名は、疫病を払うといわれた牛頭天皇と8人の王子をまつる信仰の広がりの中で八王子神社が建立され、戦国時代に北条氏照がこの地に城を築き、八王子城と呼んだことが由来とされています。江戸時代には甲州街道の宿場町として栄え、繭や生糸、織物などが市に集まるようになりました。江戸末期に横浜港が開港し

外国との貿易が始まると、八王子近辺の生糸が八王子に集められ、後に「絹の道」と呼ばれる道を経て、横浜から外国へ輸出されていました。江戸時代の文献で「桑都」と称された八王子は、大正から高度成長期の昭和まで「織物のまち」として発展してきたのです。

交通の利便性を生かして

このような歴史に培われた八王子には現在、優れた技術力と製品開発力を持つ企業が多数立地しており、事業所数は約1万8000に上ります。交通の結節点としての優位性に加え、東京都内でありながら都心部に比べて必要な用地が確保しやすく、働く人にとっても企業にとっても魅力的な都市になっています。近年は、大企業の研究拠点の新設や増設が相次ぎ、学「研」都市としても注目されています。

圏央道が開通し、関越道や東北道、東名高速など都心から放射線状に延びる6つの高速道路へのアクセスが飛躍的に向上しました。現在、圏央道八王子西インターチェンジ周辺地区の整備を進めており、将来的には近隣都市全体の経済活動の活性化につながる、首都圏西部の物流拠点の構築を目指しています。

市制施行100周年

本市が誕生したのは、大正6年のことです。その後、9町村との合併を経て、平成27年には中核市に移行しました。そして、本年、市制施行から100周年を迎えました。

八王子の名にちなみ、自然・環境、芸術・文化など8つのテーマ構成で100周年記念事業を展開いたしますが、その柱となるのがリレー形式で実施するビジョンフォーラムです。本市の魅力や未来について、市民からご意見をお寄せいただきながら、八王子の未来図を描いてまいります。

そして、記念事業の中心的イベントとなるのは、「全国都市緑化はちおうじフェア」。9月16日から1カ月間にわたり、市の中心部にある「富士森公園」をメイン会場に、市内6カ所のサテライト会場で「食」や「ガーデニング」「アウトドアスポーツ」などさまざまな体験ができます。

市制を施行した大正6年当時と比べて、まちは大きく発展しましたが、周囲には今も豊かな緑や清らかな水辺が残っています。都内

にありながら「人」と「自然」が調和する文化的なライフスタイルを提案し、八王子ならではの「みどりの環境調和都市」を全国に向けて発信いたします。

このほか、5月にはエスフォルタアリーナ八王子で「IFSCボルドリングワールドカップ八王子2017」が開催されます。東京2020オリンピック・パラリンピック大会の追加競技として注目のスポーツです。

本市は、1964年東京オリンピック大会で自転車競技のロードレース・トラックレースの会場になりました。市民の協力の下、選手や関係者のため、さまざまな歓迎行事が行われ、全国初の「親切都市」を宣言したことは本市のレガシーとなりました。2020大会では、事前キャンプの誘致に取り組んでいますが、世界のトップクライマーが集う国際大会が本市で開催されることは、外国人選手やスタッフに対するおもてなしなど、ノウハウを蓄積する絶好の機会ととらえています。

これらのビッグイベントをきっかけに、全国各地から訪れる方々に本市の魅力を堪能していただ

ればと思っています。

次の100年の輝きへ

本市では、このようなまちの魅力を生かしたMICE戦略を進めています。4月に「八王子観光コンベンション協会」を設立し、来街者の増加を目指す取り組みに力を入れています。また、中心市街地では、東京都が産業交流拠点の整備計画を進めており、東京都西部

全体の経済振興の拠点となるよう施策を展開いたします。100周年記念事業は、まさにMICE戦略の大事な第一歩となるのです。彩りあふれる本市の100年の歴史を、新たな輝きの100年につなげていくために、人やまちの未来に投資するソフト・ハード両面わたる事業を展開し、若い世代が夢と希望を持てるまちづくりを目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 186.38 km²
- ◆ 人口 56万2984人
- ◆ 世帯数 26万2259世帯

〔基本理念〕人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子
〔まちの特徴〕東京都の西部に位置し、かつては甲州街道最大の宿場町として栄え、豊かな自然が身近にありながら、都心まで電車で40分という恵まれた環境を有し、約10万人の学生が集う全国有数の学園都市



八王子市長
石森孝志



〔特産品〕八王子ラーメン、高尾とろろそば
〔観光〕高尾山、国史跡八王子城跡・滝山城跡、夕やけ小やけふれあいの里、都内初の都市型「道の駅八王子滝山」
〔イベント〕八王子まつり、八王子いちよう祭り、フラワーフェスティバル由木、全関東八王子夢街道駅伝、八王子フードフェスティバル、高尾梅郷梅まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「富士山の恵みを活かした 元気に輝く 国際文化都市」の実現に向けて

日本一の山 富士山に抱かれて

富士宮市は、3776mの日本一の標高を誇る富士山の南西麓に位置し、広大な森林や豊富な湧水などの自然に恵まれ、市域の46%が富士箱根伊豆国立公園に指定されています。豊かな自然の中で歴



富士山の麓に広がる富士宮市

史と文化がはぐくまれ、富士山本宮浅間大社の門前町として、また、富士山の代表的な登山口として栄えてきました。

このような中で、富士山は、平成25年6月には古来より日本の象徴として日本人の山岳信仰や葛飾北斎らの浮世絵の題材にもなるなど、信仰の対象・芸術の源泉としての文化的意義が評価され、世界遺産に登録されました。

また、ご当地グルメとして知る人ぞ知るものであった「富士宮やきそば」は、市民の自発的な組織である「富士宮やきそば学会」による非常に効果的なPRにより、一気に全国区となり、富士宮市の名を世に知らしめてくれました。

平成28年度から、第5次富士宮市総合計画がスタートしましたが、その総合計画において、10年

後における目指すべき将来都市像を「富士山の恵みを活かした 元気に輝く国際文化都市」とし、その実現に向け、諸施策を展開しております。

世界に誇る資源を活かし、 名実ともに国際文化都市へ

本市には、「世界遺産富士山」や「富士宮やきそば」以外にも、世界に誇る資源がまだまだあります。

まずは、富士宮市の中心市街地におけるランドマークでもある富士山本宮浅間大社であります。富士山本宮浅間大社は富士山そのものをご神体とし、全国1300余りある浅間神社の総本宮であります。そのような、富士山と浅間大社との歴史的・文化的な深い関わりから、世界遺産富士山の保護、保存のための拠点施設の役割を担

い、かつ、学術調査機能を併せ持つ施設として静岡県が整備する「富士山世界遺産センター（仮称）」、これは世界的建築家である伴茂氏の設計によるものですが、これが浅間大社の南側に、いよいよ、今年12月に開館いたします。

本市では、世界遺産センターの整備と足並みを揃え、中心市街地の活性化につながる周辺整備を行っております。世界遺産センターから浅間大社に至る参道軸の整備を進め来訪客の動線を確保するとともに、増加が見込まれる来訪者が、中心市街地に広く対流できるような仕掛けを進めております。

また、中心市街地ばかりでなく、本市の北西部には、名瀑「白糸の滝」、富士山麓の牧歌的な雰囲気満喫できる「朝霧高原」、ダイアモンド富士で有名な「田貫湖」、豪快なラフティングなどを体験できる「富士川」など、美しい自然資源が豊富にあふれております。国は、2020年に外国人観光客4000万人を目指すとし

ております。現在も、国内外から多くの観光客がいらっしゃっていただいておりますが、真の「国際文化都市」を目指し、魅力あふれるこの地域の観光資源をさらに多くの観光客の皆さまに訪れていただくよう、広域的に、また、官民連携で取り組んでいるところであります。

官民連携による女性の活躍のための支援

富士山本宮浅間大社の御祭神はコノハナサクヤヒメといわれる女神です。大変美しい女神だといわれております。

さて、美しい女神が祭られているまちとして、本市では、女性が活躍できる社会づくりについて、真剣に取り組んでいるところであります。全国的な人口減少社会の現象として、若い女性の大都市圏への流失がありますが、本市においてもそうした影響は現れつつあります。女性が働きやすいまち、女性が活躍できるまちを目指し、女性が輝くまちづくり推進室を設置し、女性を室長に据え、そうした課題を克服しているところであります。

そして、女性の活躍支援を、行政単独で行うのではなく、官民連携、富士宮市総がかりで行っているところでもあります。特徴的な取組としては、「ふじのみやべ이스テーション事業」というものを行っています。これは、市民に身近で、生活に密着したコンビニエンスストアにおいて子連れの外出をサポートしようとするもので、コンビニ大手4社との連携により、「粉ミルク用のお湯の提供」、「紙おむつの販売」などを登録の条件に全体的な展開を図っています。この事業の原案は、市内のNPO法人である「母力向上委員会」から提案されたものであり、行政・市民活動団体・企業による三位一体の子育て支援の取組であり、子育てを社会全体で担うというものを体現したものだと思っております。

輝くまちづくりに挑む

これまでも、本市においては、世界遺産である富士山や浅間大社をはじめとする本市のセールスポイントを生かしたまちづくりを行ってまいりました。東京オリンピック・パラリンピック開催を意識する中で、にぎわい創出、定住人口と交

流人口の増加などが十分見込めるとともに、それに関連する取り組みが組み立てられ、また、チャレンジできる素材、攻め手となるきっかけがいくつもある、可能性があらまじだと思っております。

将来都市像である「富士山の恵みを活かした 元気に輝く国際文化都市」の実現を目指して、精一杯、挑戦し続けたいと思っております。

プロフィール

- ◆ 面積 389.08 km²
- ◆ 人口 13万2266人
- ◆ 世帯数 5万5118世帯

〔将来都市像〕富士山の恵みを活かした 元気に輝く国際文化都市

〔まちの特徴〕世界遺産となった富士山のすそ野に広がる、多数の観光資源を有するまち

〔特産品〕富士宮やきそば、にじます、地酒、乳製品（あさぎり牛乳など）、畜産品（富士朝霧牛など）



富士宮市長
須藤秀忠



〔観光〕富士山本宮浅間大社、湧玉池、白糸の滝、朝霧高原、田貫湖

〔イベント〕富士宮ますつり大会、内房たけのこ桜まつり、狩宿さくらまつり、流鏑馬まつり、富士山お山開き、宮おどり、富士山御神火まつり、信長公黄葉まつり、富士宮まつり



富士宮市の中心市街地におけるランドマーク「富士山本宮浅間大社」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山

自然環境や歴史・
文化資源に恵まれた
政令指定都市

岡山市は、瀬戸内海特有の温暖な気候風土で晴れの日が多く、災害も少ないという恵まれた自然環境を有しています。また、鉄道路

路などの高速交通網のクロスポイントに位置する中四国の中枢拠点都市として発展を続け、平成21年4月には、全国18番目となる政令指定都市に移行しました。

市街地の中心にあるJR岡山駅から、観光のシンボルでもある岡山城・岡山後楽園を手軽に散策することができ、近年は、鳥城灯源郷・幻想庭園という夜間のライトアップイベントを同時開催するなど、両施設の一体的なPRに取り組み、観光客の増加が続いています。

さらに、わが国初の国立公園に指定された瀬戸内海に臨み、海産物を用いた豊かな食文化や、桃やぶどうをはじめとする高品質な果物も豊富にあり、観光都市としての多彩な魅力を備えています。また、周辺部には、古代吉備の繁栄

を今日に伝える数々の古墳群のほか、陣屋町、門前町、宿場町といった風情豊かな街並みなど歴史・文化資源にも恵まれています。

**未来へ躍動する
桃太郎のまち岡山**

平成28年3月に策定した「岡山



吉備津彦命を祀る吉備津神社



「桃太郎のまち岡山」ロゴマーク

市第六次総合計画「長期構想」では、新たな本市の都市づくりの象徴として、未来への躍動感、力強さと健康、白桃に代表される農産物などを、全国的に知名度が高く、岡山固有の歴史・文化に由来する「桃太郎」に重ね合わせ、「未来へ躍動する桃太郎のまち岡山」を都市づくりの基本目標に掲げ、市民と行政が一体となって取り組むこととしています。

**桃太郎のルーツと
新たな桃太郎伝説の
創造発信**

全国各地に桃太郎ゆかりとされる地域がありますが、岡山の桃太



観光のシンボル 岡山城と岡山後楽園

郎伝説は、古代吉備の温羅伝説を
ルーツとするものです。

その伝説とは、古代吉備に百済
からたどり着いた温羅が、現在も
吉備路に残る鬼ノ城を拠点に略奪
などをしては吉備の民を苦しめて
いたため、大和朝廷から吉備津
彦命が派遣され、温羅を討伐し
吉備を平定したというもので、こ
の吉備津彦命が桃太郎のモデルに
なったと言われています。

本市には、この吉備津彦命が祀



温羅に扮した「うらじゃ踊り」

られている吉備津神社や吉備津
彦神社をはじめ、討伐の際に温羅
が投げた岩と吉備津彦命の射た
矢がぶつかり合って落ちた場所
とされる矢喰宮など、温羅伝説に
まつわる多くの観光スポットが
あります。

伝承によれば、討伐された温羅
は、吉備津彦命とともに吉備の繁
栄を願い、現在も吉備津神社の境
内にある御釜殿でこの地方の吉凶
を占っているとされています。ま
た、毎年夏に開催されるおかやま
桃太郎まつりでは、祭りのハイラ
イトとして、「共生と融和」をテー
マとした「うらじゃ踊り」が行わ
れます。この踊りは、桃太郎の昔
話では鬼とされる温羅を主役とす
るもので、例年温羅化粧をした約
6000人の踊り子たちが市内の
大通りに繰り出し、エネルギーッ
シユな踊りを披露します。

こうした桃太郎伝説を継承する
文化やイベントを市民とともに持
続的なものにし、ますます発展さ
せていきながら、伝説の舞台であ
り、かつ、歴史ロマンあふれる「吉
備路」をもっと多くの方々に訪ね
ていただけるよう取り組んでいき
ます。今秋には、ＪＲ岡山駅から

プロフィール

吉備津神社や鬼ノ城など、桃太郎
伝説ゆかりの地を周遊するバスの
実験的運行を予定しており、この
機会に多くの皆さまに桃太郎の
ルーツを訪ねていただきたいと
思っています。

そして、「桃から生まれた桃太
郎」の言葉通り、新しいモノやコ

トが誕生し、成長し、躍動するこ
とをコンセプトとした、これまで
の桃太郎伝説にとらわれない新た
な桃太郎伝説を、ここ岡山の地か
ら創造発信することで、実際に訪
れてみて桃太郎の躍動感を体感し
ていただけるようなまちづくりを
目指します。

◆ 面積 789・95km²
◆ 人口 70万8140人
◆ 世帯数 32万7900世帯

〔将来都市像〕

・ 中四国をリードし、活力と創造性あ
ふれる「経済・交流都市」
・ 誰もがあこがれる充実の「子育て・
教育都市」
・ 全国に誇る、傑出した安心を築く
「健康福祉・環境都市」

〔まちの特徴〕岡山平野の中央部に位
置し、温暖な気候と自然災害が少ない
気候風土に恵まれ、歴史・文化資源も
豊富な都市



岡山市長
大森雅夫



〔市町村合併〕平成17年3月22日御津
町・灘崎町を編入合併、平成19年1月
22日建部町・瀬戸町を編入合併
〔特産品〕白桃、マスカット、ピオーネ、
メロン、きびだんご、ばらずし、鱈、
ままかり、烏城彫、撫川うちわ
〔観光〕岡山城、岡山後楽園、吉備津
神社、備中高松城址、造山古墳、犬島
〔イベント〕おかやま桃太郎まつり、
幻想庭園・鳥城灯源郷、おかやまマラ
ソン、おかやま国際音楽祭、備前岡山
京橋朝市、西大寺会陽

※面積は国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。